

令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書  
（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について（答申）

教科 [ 技術・家庭 ] 種目 [ 家庭分野 ]

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [ 技術・家庭 ] 種目 [ 家庭分野 ]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、大型商業施設やコンビニエンスストアが多くある地域がある一方、スーパーマーケットが近くにないという地域もあるなど、保護者や生徒の生活様式や価値観の多様化がみられる地域である。
- 生徒を取り巻く社会の変化やライフスタイルの変化により、家庭での生活経験が少なくなっており、家庭生活において、基礎的・基本的な知識や技能を習得できていない生徒がいる。また、調理等の実習には意欲的に取り組み、学習のまとめには、家庭で実践したいと書く生徒は多いが、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことが十分できていないという課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る工夫 ② 伝統と文化に関する内容の記述
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 調べたことや実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

### 3. 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る工夫

- 節ごとに、見出しの下に「目標」を示し、自己評価できるようにチェック欄を設けている。
- 学習内容と到達度を確認するため、学習指導要領で示された「内容」A家族・家庭、B食生活、C衣生活・住生活、D消費生活と環境ごとの「学習のまとめ」に、自己評価できる「学習をふり返ろう」と大切な用語をまとめた一覧を示すとともに、評価問題「学習したことを確かめよう」を設けている。
- B食生活、C衣生活では、特設ページ「基礎技能」に、実習時、確認すべき基礎的な技能をまとめて掲載するとともに、実習例を示している。
- 「小学校」のマークを付し、小学校で学んだことを、各「内容」の導入ページと側注に示している。
- ガイダンスの「中学校家庭分野の学習内容を見てみよう」で、小学校と中学校の学習の系統性を活動場面の写真と文章で示している。
- 巻末に「言葉のページ」を設け、家庭科の独特な言い回しや名称を領域ごとにまとめて解説している。
- 各節の最後の「まとめよう」「生活に生かそう」で、まとめの活動を設けている。

##### 視点② 伝統と文化に関する内容の記述

- 「伝統・文化」のマークを付し、写真やイラストなどを掲載し、衣食住に関する事例を紹介している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- ガイダンスのページを「どんな学習をするのだろうか」「どんな自分になりたいかな」「自分と家族との生活を見つめよう」の3つのテーマで構成し、生活チェックや「やってみよう」「考えてみよう」で、学習の仕方を示すとともに、自分と家族、社会の関係を考えさせる活動を設定している。また、3年後の自分について記述する欄を設けている。
- 学習したことを日常生活や社会と関連付けるためのコラム「プロに聞く！」を設け、働く人のメッセージを示している。
- 「内容」ごとの「学習のまとめ」と各節の最後のまとめに「生活に生かそう」を設けている。
- 実習ページに「私のオリジナル」を設け、工夫例として示している。
- B食生活に、地域の食材として、広島市の野菜（ひろしまそだち）を掲載している。

##### 視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「選択 生活の課題と実践」に、課題解決の進め方を具体例を交えて説明するとともに、内容ごとの実践例を6種類掲載している。
- 「考えよう」「調べよう」「やってみよう」のコーナーに、実践的・体験的な活動を示している。
- 調理実習、製作、触れ合い体験の学習活動で、学習の流れや手順を示している。
- ガイダンスの「問題を解決する道筋」で、問題解決の過程を具体例を交えて示している。
- 「選択 生活の課題と実践」に「課題の決め方」を設け、手順を具体例を交えて説明するとともに、課題を挙げるためのヒントや活動過程ごとにチェックする欄を示している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス→B食生活→C衣生活・住生活→A家族・家庭→D消費生活と環境→生活の課題と実践の順に配列している。
- 肉の調理、魚の調理、野菜の調理の順に、実習例を47示しており、調理例に加えて、組み合わせる料理の例と手順が示してある。
- 実態に応じて選択できるよう、幼児との触れ合い体験の実習例を「施設訪問」、「中学校への招待」、「写真での観察」の3事例を掲載している。
- 「布を用いた物の製作」では、小物、リュック、ハーフパンツなどを扱っている。
- ハーフパンツを製作する学習では、着衣したときのゆとりを想定して採寸と補正する学習を示している。
- 教科書の構成や使い方、マークの意味を見開き2ページで掲載している。
- サイズ AB判 重さ 550g

##### 視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」のマークを付し、発展的な内容として、写真と共に事例や説明を紹介している。

**4 内容の表現・表記****視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用**

- 調理実習の主題材では、手順や食品の科学的変化を、6段階で手順ごとに写真と「ポイント」を付している。
- B食生活、C衣生活の実習では、見通しをもって学習活動ができるよう、完成品の写真を大きく掲載している。
- 説明の文章と写真と重ならないよう配置している。

**視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫**

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。
- 「実習例」「基礎技能」のページの爪を右ページの小口に設けている。

**5 言語活動の充実****視点⑨ 調べたことや実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫**

- 節の冒頭に、「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」のマークを付し、様々な言語活動の場を設けている。
- 「選択 生活の課題と実践」で、「内容」ごとの実践例と言語活動例を示している。  
レポート、プレゼンテーション、ポスター、新聞
- 「選択 生活の課題と実践」に、「まとめと発表の仕方」を設け、レポート、ポスター、新聞形式、紙芝居、プレゼンテーションなどの言語活動例と「まとめ方や伝え方のポイント」「まとめの読み方や聞き方のポイント」を示している。
- 「幼児との関わり方についてまとめよう」で、感じたことを出し合い、課題や目的に沿ってまとめる学習活動を設けている。

## 1 基礎・基本の定着

**視点① 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る工夫**

- 節ごとに、見出しの下に「目標」を示し、自己評価できるようにチェック欄を設けている。
- 学習内容を確認するため、学習指導要領で示された「内容」A家族・家庭、B食生活、C衣生活・住生活、D消費生活と環境ごとの「学習のふり返し」に、確認問題「キーワードの確認をしよう」を設けている。
- B食生活では「調理の基礎」、C衣生活では「製作実習の基礎」の各節に、基礎的な技能を資料として掲載している。
- 吹き出しや「復習」「ふり返ろう」のマークを付し、小学校で学んだことを示している。

**視点② 伝統と文化に関する内容の記述**

- 写真やイラストなどを掲載し、衣食住に関する事例を紹介している。
- ガイドンスの「年中行事とわたしたちの暮らし」で、日本の伝統的な年中行事を紹介している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 学習意欲を高めるための工夫**

- ガイドンスのページを「家庭分野の学習を、はじめよう!」「年中行事と私たちの暮らし」「私の成長と、家庭分野の学習」の3つのテーマで構成し、学習の仕方を示すとともに、小学校の学習を振り返って、中学校の学習目標を記述する欄を設けている。
- 学習したことを日常生活や社会と関連付けるための「コラム」を設け、働く人のメッセージを示している。
- 「内容」ごとの「学習のまとめ」に「生活に生かそう」を設けている。

**視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫**

- 「選択 生活の課題と実践」に、課題解決の進め方を具体例を交えて説明するとともに、内容ごとの実践例を6種類掲載している。
- 「調べよう」「考えよう」「やってみよう」「実験」などのコーナーに、実践的・体験的な活動を示している。

## 3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- ガイドンス→A家族・家庭→B食生活→C衣生活・住生活→D消費生活と環境の順に配列し、生活の課題と実践をA・B・Cのそれぞれの後に設けている。
- 主食の調理、主菜の調理、副菜の調理、汁物の調理の順に、実習例を33示している。
- 幼児との触れ合い体験については「中学校でのふれ合い」「幼稚園でのふれ合い」の2事例を写真で示している。
- 「布を用いた物の製作」では、小物、エプロンなどを扱っている。
- サイズ B5判 重さ 550g

**視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況**

- 「発展」のマークを付し、発展的な内容として、写真と共に事例や説明を紹介している。

## 4 内容の表現・表記

**視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用**

- 調理実習では、手順を写真と「ポイント」を付して示している。

**視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫**

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

## 5 言語活動の充実

**視点⑨ 調べたことや実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫**

- 各節の冒頭に、「Q」のマークを付し、「考えてみよう」「話し合ってみよう」など、様々な言語活動の場を設けている。
- 「選択 生活の課題と実践」で、「内容」ごとの実践例と言語活動例を示している。  
レポート、マップ、プリント集
- 「話し合おう」のコーナーを側注に設け、話し合う言語活動を設けている。
- A家族・家庭の冒頭に「グループでの話し合いのポイント」を示し、話し合うテーマの例を示している。

## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る工夫

- 節ごとに、見出しの横に「目標」を示している。
- 学習内容の振り返りができるよう、学習指導要領で示された「内容」A家族・家庭、B食生活、C衣生活・住生活、D消費生活と環境ごとの「学習のまとめ」に、自己評価ができる「学習をふり返ろう」を設けている。
- B食生活では、「調理の基本」、C衣生活は「製作しよう」の各節に、基礎的な技能を学習内容として掲載している。

### 視点② 伝統と文化に関する内容の記述

- 「伝統文化」マークを付し、写真やイラストなどを掲載し、衣食住に関する事例を紹介している。
- 巻末の「伝統文化を受け継ぎ、生活に生かす」で、日本全国の伝統工芸品を紹介している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- ガイダンスのページを「家庭分野の学習をはじめよう」「自立に向かって」「共生社会に向かって」「持続可能な社会に向かって」「人やものとかかわりながら学ぼう」の5つのテーマで構成し、それぞれについて説明している。
- 学習したことを日常生活や社会と関連付けるためのコラム「参考」を設け、働く人のメッセージを示している。
- 「内容」ごとの「学習のまとめ」に「生活に生かそう」を設けている。
- 実習ページに「応用例」を工夫例として示している。

### 視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「選択 生活の課題と実践」に、課題解決の進め方を具体例を交えて説明するとともに、内容ごとの実践例を28種類掲載している。
- 「課題」「実験」のコーナーに、実践的・体験的な活動を示している。
- 調理実習、製作、触れ合い体験の学習活動で、学習の流れや手順を示している。
- 巻末の「言語活動の充実のために」で、問題解決の過程を具体例を交えて示している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- ガイダンス→A家族・家庭→B食生活→C衣生活・住生活→D消費生活と環境→生活の課題と実践の順に配列している。
- 肉の調理、魚の調理、野菜の調理の順に、実習例を47示している。
- 実態に応じて選択できるよう、幼児との触れ合い体験の実習例を「施設訪問」、「中学校への招待」、「子育て支援センターや児童館への施設訪問」、「映像の視聴やロールプレイングなどで、幼児の世界を体験する」方法の4事例を掲載している。
- 「布を用いた物の製作」では、小物、リュック、ハーフパンツなどを扱っている。
- ハーフパンツを製作する学習では、着衣したときのゆとりを想定して採寸と補正する学習を示している。
- サイズ B5判 重さ 450g

### 視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 「発展」のマークを付し、発展的な内容として、写真と共に事例や説明を紹介している。

## 4 内容の表現・表記

### 視点⑦ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 調理実習では、手順を写真と「ポイント」を付して、示している。
- B食生活、C衣生活の実習では、見通しをもって学習活動ができるよう、完成品の写真を大きく掲載している。

### 視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

## 5 言語活動の充実

### 視点⑨ 調べたことや実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 各節の冒頭に、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」「ふり返ってみよう」など、様々な言語活動の場を設けている。
- 「選択 生活の課題と実践」で、「内容」ごとの実践例と言語活動例を示している。レポート、壁新聞、マップ
- 「言語活動充実のために」で、手紙を書いて気持ちを伝える活動を設定している。

#### 4 意見

##### 意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴である、調理実習、製作、触れ合い体験の学習活動で、学習の流れや手順を示していること、ガイダンスの「問題を解決する道筋」で、問題解決の過程を具体例を交えて示していること、「選択 生活の課題と実践」を学習する際、「課題の決め方」を設け、手順を具体例を交えて説明するとともに、課題を挙げるためのヒントや活動過程ごとにチェックする欄を示していること、「内容」ごとの実践例とレポート、プレゼンテーション、ポスター、新聞などの言語活動例を示していること、「まとめと発表の仕方」を設け、レポート等の「まとめ方や伝え方のポイント」等を示していること、「幼児との関わり方についてまとめよう」で、感じたことを出し合い、課題や目的に沿ってまとめる学習活動を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことが十分できていないという課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、「選択 生活の課題と実践」では、課題と実践の進め方を見開き2ページで示し、流れを把握しやすく掲載したり、課題の決め方、まとめと発表の仕方の手順と具体例、そのヒントやポイントなども示したりして、学習した内容を日常生活につなげられるよう工夫しているという特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成27年度に採択し、平成28年度から平成31年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

##### 意見2 開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

開隆堂出版の教科書の特徴である、調理実習、製作、触れ合い体験の学習活動で、学習の流れや手順を示していること、巻末に特設ページ「言語活動の充実のために」を設け、問題解決の過程を取組例や改善例など具体的に示していること、「選択 生活の課題と実践」を学習する際、「内容」ごとの実践例とレポート、壁新聞、マップなどの言語活動例を示していること、巻末に、手紙を書いて気持ちを伝える活動を設定し、書き方と共に、生徒に書かせるページを設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、学校で学んだ知識や技能を家庭生活に積極的に生かすことが十分できていないという課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。





令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書  
（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について（答申）

教科〔外国語〕 種目〔英語〕

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [ 外国語 ] 種目 [ 英語 ]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国際平和文化都市であり、外国から多くの人々が平和公園や原爆ドーム等を訪れる地域である。本市では、小学校第5学年から「聞くこと」「話すこと」を中心に学習する英語科を実施しており、中学校における外国語科への円滑な接続を図っている。中学校外国語科では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく育成し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図っている。
- 平成29年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、コミュニケーションへの積極性があり、基本的な文のきまりを理解して作文する力は概ね身に付いているが、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるよう話す力、根拠となる英文を読み取り、まとまりのある一貫した文章を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 言語に関する理解を深めるための工夫 ② 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫 ⑦ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑧ 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で、既習事項と対比して示している。
- 各学年の主要な文法事項に絞って、「まとめと練習」に示し、各ページの最後に練習問題を設けている。
- 巻末資料「基本文一覧」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。
- 「学び方コーナー」で英語を学習するための方法やコツを示している。
- 第2・3学年の巻末資料「表現のまとめ」で、既習表現をカテゴリーに分けて示している。

##### 視点② 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Hi English」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語や簡単な会話表現などを扱い、「Unit 0」でアルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「英語の音とつづり」で、音とつづりの関係などを示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標と各単元末の「Action」(第1学年は各パートのみ)を、「目標：～できる」という CAN-DO の形で、各単元の冒頭にまとめて示している。
- 日常生活・風俗習慣や自然科学など、多様な題材を取り上げている。第3学年では、ヒロシマの平和を題材とした物語「A Mother's Lullaby」を扱っている。

##### 視点④ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Presentation」で、町紹介や日本文化紹介など、テーマに沿って原稿を書いて発表するなどの自己表現活動を設けている。
- 各単元末の「Daily Scene」の中で、様々な日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」、「書く」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを3示している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be 動詞 (am/are/is) から始まり、一般動詞過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第3学年で、受動態を扱っている。
- 複数 (1～5) 単元ごとに、既習の知識・技能を活用するタスク活動「Presentation」を配置している。
- 各単元に「話す」「書く」技能に特化した活動「Daily Scene」を配置している。
- 各学年の始めに、前学年までの復習・確認する「Unit 0」を設定している。
- 第1学年 サイズ AB判 重さ 330g
- 第2学年 サイズ AB判 重さ 330g
- 第3学年 サイズ AB判 重さ 330g

#### 4 内容の表現・表記

##### 視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 各学年巻末の「Bonus Word Box」に、「Presentation」の活動で活用できる表現を示している。
- 第3学年巻末に、「Further Reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。

##### 視点⑦ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

#### 5 言語活動の充実

##### 視点⑧ 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Presentation」で、発表する活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。
- 第2・3学年の各単元末の「Read&Think」で、読んで考えたことを、話したり書いたりする統合的な活動を設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の前に示しており、本文とは異なる文を用いた、対話形式で示している。
- 複数の單元ごとに文法事項をまとめ、「英語のしくみ」に示している。
- 巻末資料「Basic Dialogのまとめ」で、各学年の基本文を日本語と英語で示している。

### 視点② 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Let's Start」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語や簡単な会話表現などを扱い、「Program 1」で、アルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「英語のつづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標を、「～しよう」という形で、パートごとに示している。
- 全学年の巻末に、「英語で『できるようになったこと』リスト」を設け、3学年分の学習到達目標をまとめて、技能別に細かく示し、自己評価できるようにしている。
- 伝統文化や物語など、多様な題材を取り上げており、特に日本の伝統文化に関する題材を多く扱っている。第3学年の巻末資料「英語で料理」で、広島風お好み焼きの作り方を扱っている。

### 視点④ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「My Project」と第3学年の「Special Project」で、自己紹介やスピーチ、スキットなどの自己表現活動を設けている。
- 各学年7～11回の「POWER-UP」の中で、様々な日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」、「書く」などの活動を設けている。
- 第2・3学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを、第2学年6、第3学年2示している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be 動詞 (am/are) から始まり、一般動詞の過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の肯定文まで扱っている。
- 複数 (2～4) 單元ごとに、既習の知識・技能を活用するタスク活動「My Project」を配置している。
- 「聞く」「話す」「書く」技能のそれぞれに特化した活動「POWER-UP」を、各学年7～10回配置している。
- 第1学年 サイズ AB判 重さ 365g  
第2学年 サイズ AB判 重さ 330g  
第3学年 サイズ AB判 重さ 318g

## 4 内容の表現・表記

### 視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 第1学年の巻末に、様々な場面のコミュニケーション活動で活用できる動詞を「アクションカード」として付している。
- 第2・3学年巻末に、「Extensive reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。

### 視点⑦ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

## 5 言語活動の充実

### 視点⑧ 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「My project」で、スピーチなどの活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。

**1 基礎・基本の定着**

**視点① 言語に関する理解を深めるための工夫**

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「Check It Out」に示している。
- 巻末資料「目標文のまとめ」で、各学年の基本文を英語で示している。また、第2・3学年は、前年度までの基本文も英語で示している。

**視点② 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫**

- 第1学年巻頭の「Pre lesson」で、小学校で慣れ親しんだ表現や自己紹介を扱い、「Let's start」でアルファベットや身の回りの単語を扱っている。
- 第1学年巻末の「つづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

**2 主体的に学習に取り組む工夫**

**視点③ 学習意欲を高めるための工夫**

- 大単元 (Chapter) ごとの目標を、「～ができるようになります」という形で CAN-DO の形で、大単元の冒頭に示している。
- 日常生活・風俗習慣や地理・歴史など、多様な題材を取り上げている。

**視点④ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫**

- 「Chapter Project」と「Book Project」で、他者紹介、観光パンフレットの作成、スピーチなどの様々な自己表現活動を設けている。
- 各学年3回の「Talking Time」の中で、各日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを12示している。

**3 内容の構成・配列・分量**

**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 第1学年は、一般動詞から始まり、一般動詞の過去形（不規則動詞）まで扱っている。
- 第3学年で受動態を扱っている。
- 大単元（2～3単元）ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Project」を配置している。
- 「話す」技能に特化した活動「Talking Time」を各学年3回、「読む」技能に特化した「Reading」を各学年2～3回配置している。
- 各学年の始めに、前学年の復習・確認する「Pre-lesson」を設定している。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 338g  
第2学年 サイズ B5判 重さ 348g  
第3学年 サイズ B5判 重さ 330g

**4 内容の表現・表記**

**視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫**

- 第2学年の巻末に、日本とアメリカのジェスチャーの違いがわかるイラストを示している。
- 第1学年の点字を題材とした単元で、実際の点字を指で感じるができる資料を付している。

**視点⑦ 文字の大きさや配色等の工夫**

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

**5 言語活動の充実**

**視点⑧ 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫**

- 「Chapter Project」と「Book Project」で、スピーチなどの活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。

## 1 基礎・基本の定着

**視点①** 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文を、既習事項と対比して示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「文法のまとめ」に示している。
- 巻末資料「基本文のまとめ」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、前年度までの基本文も英語で示している。
- 「For Self Study」で、英語を学習するための方法やコツを示している。

**視点②** 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Get ready」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語を用いた会話表現やアルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「つづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③** 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元で扱う題材や文法のポイント及び活動内容を、各単元の冒頭にまとめて示している。
- 各学年の巻末に、「What Can I Do?」を設け、それぞれの学年の学習到達目標を、技能別にCAN DOの形で示し、自己評価できるようにしている。
- 日常生活・風俗習慣や物語など、多様な題材を取り上げている。第3学年では、ヒロシマの平和を題材とした物語「The story of Sadako」と歌「ヒロシマの折鶴」を扱っている。

**視点④** 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Project」で、大切なものや自分の町の紹介文を書いて発表するなどの自己表現活動を設けている。
- 単元末の「USE Speak」や各学年5～9回の「Let's talk」の中で、様々な日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを16示している。

## 3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤** 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be動詞 (am/are/is) から始まり、一般動詞過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の肯定文まで扱っている。
- 1～3単元ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Project」を配置している。
- 複数(1～2)単元ごとに、「話す」「聞く」技能に特化した「Let's talk」、「Let's listen」を配置し、「読む」技能に特化した「Let's Read」を、各学年1～3回配置している。
- 第1学年 サイズ AB判 重さ 369g
- 第2学年 サイズ AB判 重さ 369g
- 第3学年 サイズ AB判 重さ 367g

## 4 内容の表現・表記

**視点⑥** 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 第1学年巻末の「Let's Play SUGOROKU!」で、既習の表現を活用する活動を設けている。
- 各学年巻末に「Further Reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。
- 全学年の各単元の冒頭に、学習内容のイメージが掴めるような写真を示している。

**視点⑦** 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

## 5 言語活動の充実

**視点⑧** 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Project」に、インタビューして得た情報を書いてまとめ、人に紹介するなどの、複数の技能を関連付けた統合的な活動を設けている。
- 各単元末の「USE Speak」、「USE write」で、読んだ内容を伝えるために要約するなどの統合的な活動を設けている。

1 基礎・基本の定着

**視点① 言語に関する理解を深めるための工夫**

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で示している。
- 日本語や既習の文法事項と比較できるよう、語順や修飾関係など文のしくみに着目し、関連のある文法事項を整理して「英語のしくみ」に示している。
- 巻末資料「重要構文復習リスト」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、前年度までの基本文も英語と日本語で示している。
- 「Listening Tips」「Conversation Tips」「Reading Tips」「Writing Tips」で、それぞれの技能を習得するための方法やコツを示し、練習問題を設けている。
- 各単元の基本表現を、会話や作文で繰り返し活用し、定着を図るための別冊「Essentials」を付している。

**視点② 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫**

- 第1学年巻頭の「Springboard」で、小学校で慣れ親しんだ身の周りの単語や表現やアルファベットを扱っている。
- 第1学年巻末の「つづりと発音」で、音とつづりの関係などを示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 学習意欲を高めるための工夫**

- 各単元のパートごとの目標を、「目標：～できる」というCAN-DOの形で、パートごとに何ができるようになればよいか簡潔に示している。
- 「Project」や「Reading Lesson」、「Tips」などで、聞く、話す、読む、書くなどの各活動の目標をCAN-DOの形で示している。
- 全学年の巻末に、「CAN-DO 自己チェックリスト」を設け、3学年分の学習到達目標を、技能別、学年別にCAN-DOの形で示し、自己評価できるようにしている。また、それぞれの学習到達目標と単元等の関連箇所を示している。
- 日常生活・風俗習慣や地理・歴史、伝統文化など、多様な題材を取り上げている。

**視点④ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫**

- 「Project」で、インタビューなどで調査したことを、英字新聞やガイドブックにまとめ、発表することやスピーチなどの様々な自己表現活動を設けている。
- 各学年2～4回の「Time for a Skit」の中で、各日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 第1学年の巻頭で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを6示している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 第1学年は、be動詞(am/are)から始まり、一般動詞過去形(不規則動詞)の後、be動詞の過去形(was/were)まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の疑問文まで扱っている。
- 複数(2～3)単元ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Project」を配置している。
- 「読む」技能に特化した「Reading Lesson」を各学年1～2回、「話す」技能に特化した活動「Time for a Skit」を各学年2～4回配置している。
- 第1学年 サイズ B5判 重さ 297g  
分冊 重さ 116g
- 第2学年 サイズ B5判 重さ 280g  
分冊 重さ 102g
- 第3学年 サイズ B5判 重さ 274g  
分冊 重さ 94g

4 内容の表現・表記

**視点⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫**

- 第1学年の巻末に、アルファベットの復習ができる折り込み資料「キーボード」を付している。
- 第2・3学年巻末に、「Optional Reading」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。
- 第1学年の日本の文化を題材とした単元で、本文内容の理解を助ける、英文で書かれた日本の漫画本の写真を示している。

**視点⑦ 文字の大きさや配色等の工夫**

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

教育出版	<p>5 言語活動の充実</p> <p>視点⑧ 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 「Project」に、インタビューして得た情報を書いてまとめ、英語で発表するなどの、複数の技能を関連付けた統合的な活動を設けている。</li><li>○ 各単元末の「Jump Task」で、インタビューしたことをレポートにまとめて発表するなどの統合的な活動を設けている。</li></ul>
------	--



## 1 基礎・基本の定着

**視点①** 言語に関する理解を深めるための工夫

- 基本文を本文の後に示しており、主に本文で扱った英文で示している。
- 複数の単元ごとに文法事項をまとめ、「Language Focus」に示している。
- 巻末資料「基本文一覧」で、各学年の基本文を英語と日本語で示している。また、第2、3学年は、前年度までの基本文も英語と日本語で示している。
- 「Your Coach」で、英語を学習するための方法やコツを示している。

**視点②** 第1学年導入期における小学校英語科からの接続の工夫

- 第1学年巻頭の「Let's Enjoy English!」で、小学校で慣れ親しんだ身近な表現や単語やアルファベット、身の周りの単語を扱っている。
- 第1学年巻末の「音声のまとめ」で、音とつづりの関係などを示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③** 学習意欲を高めるための工夫

- 各単元のパートごとの目標を、「目標：～できる」という CAN-DO の形で、各単元の冒頭にまとめて示している。
- 「Go for It!」で、活動の目標を CAN-DO の形で示している。
- 日常生活・風俗習慣など、多様な題材を取り上げている

**視点④** 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する工夫

- 「Go for It!」で、人物紹介のスピーチや職場体験の報告、ディスカッションなどの自己表現活動を設けている。
- 各学年2～5回の「Skit time」の中で、各日常場面を設定し、生徒が考えて「話す」活動を設けている。
- 全学年の巻頭や巻末で、生徒が使えるクラスルームイングリッシュを、第1学年5、第2学年9、第3学年16示している。

## 3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤** 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年は、be 動詞 (am/are/is) から始まり、一般動詞過去形 (不規則動詞) まで扱っている。
- 第2学年で、受動態の過去形の肯定文までを扱っている。
- 複数 (1～4) 単元ごとに、既習の知識、技能を活用するタスク活動「Go for It!」を配置している。
- 「読む」技能に特化した「Let's read」を各学年2～3回配置している。
- 第1学年 サイズ AB判 重さ 384g
- 第2学年 サイズ AB判 重さ 371g
- 第3学年 サイズ AB判 重さ 353g

## 4 内容の表現・表記

**視点⑥** 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用や巻末資料の工夫

- 各学年巻末の「情報ページ」に、「Try It!」で活用できるインフォメーションギャップの資料を掲載している。
- 各学年巻末に「Let's read more」を設け、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を掲載している。

**視点⑦** 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字、レイアウトにしている。

## 5 言語活動の充実

**視点⑧** 4技能を統合的に活用させる言語活動の工夫

- 「Go for It!」で、書いてまとめたり発表したりする活動の過程に、4技能それぞれの活動を設けている。

#### 4 意見

##### 意見 1 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴である、各単元の目標を CAN-DO の形で、何ができるようになればよいか簡潔に示していること、特設ページの、聞く、話す、読む、書くなどの各活動の目標を CAN-DO の形で示していること、全学年の巻末に、3 学年分の学習到達目標を、技能別、学年別に CAN-DO の形で示し、自己評価できるようにするとともに、それぞれの学習到達目標と単元等の関連箇所を示していること、特設ページで、調査したことを英字新聞やガイドブックにまとめるなど様々な自己表現活動を設けていること、英語でインタビューして得た情報を書いてまとめ、英語で発表するなど、複数の技能を関連付けた統合的な活動を設けていること、各単元末の「Jump Task」で、インタビューしたことをレポートにまとめて発表するなどの統合的な活動を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるよう話す力、根拠となる英文を読み取り、まとまりのある一貫した文章を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、各単元末の「Jump Task」で、インタビューしたことをレポートにまとめて発表するなどの活動を設けるとともに、特設ページの「Project」では、それまでの Lesson や活動などで積み上げてきた、基礎的・基本的な知識や技能を異なる文脈や場面で使うことによって、生徒自身が考えたことを文章にまとめたり、それを発言したり、発表したりするといった活動を設け、技能を統合的に活用できるよう工夫している特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成 27 年度に採択し、平成 28 年度から平成 31 年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

##### 意見 2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、「学び方コーナー」で英語を学習するための方法やコツを示したり、第 2・3 学年の巻末資料「表現のまとめ」で、既習表現をカテゴリーに分けて示したりするなど、基礎・基本の定着のための工夫がある。

さらに、東京書籍の教科書の特徴である、各単元の目標を「目標：～できる」という CAN-DO の形で、各単元の冒頭にまとめて示していること、第 2・3 学年の各単元末の「Read&Think」で、読んで考えたことを、話したり書いたりする統合的な活動を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるよう話す力、根拠となる英文を読み取り、まとまりのある一貫した文章を書くなどの技能を統合的に活用する力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

「令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書(「特別の教科 道徳」を除く)の採択について(答申)」において意見を付された教科用図書一覧

番号	種 目	発 行 者	
		よりふさわしい	ふさわしい
1	国 語	光村図書出版	東京書籍
2	書 写	光村図書出版	東京書籍
3	社 会 (地理的分野)	東京書籍	帝国書院
4	社 会 (歴史的分野)	東京書籍	帝国書院
5	社 会 (公民的分野)	東京書籍	帝国書院
6	地 図	帝国書院	東京書籍
7	数 学	東京書籍	学校図書
8	理 科	新興出版社啓林館	東京書籍
9	音 楽 (一般)	教育芸術社	教育出版
10	音 楽 (器楽合奏)	教育芸術社	教育出版
11	美 術	光村図書出版	日本文教出版
12	保健体育	大修館書店	学研教育みらい
13	技術・家庭 (技術分野)	開隆堂出版	東京書籍
14	技術・家庭 (家庭分野)	東京書籍	開隆堂出版
15	英 語	教育出版	東京書籍